

資料2-2	令和7年10月23日(木)開催
-------	-----------------

令和7年度第1回富山県がん対策推進協議会
----------------------

# アピアランスケア支援事業について

# アピアランスケア支援事業費補助金概要

- 令和6年10月から、従来の市町村助成額に上乗せして県補助を開始。
- 県補助分の上限額 ウィッグ:1万円 乳房補正具:5千円
- 申請先は市町村
- 上限額(令和7年9月時点)

補正具	上限額の パターン	市町村上限額 (購入額の1/2が上限)	県上限額 (市町村助成額の 1/2が上限)	上限額合計 (市町村+県)
ウィッグ	A 1市町村	2万円	1万円	3万円
	<b>B 12市町村</b>	3万円		<b>4万円</b>
	C 2市町村	5万円		6万円
乳房補正具	D 1市町村	1万円	5千円	1万5千円
	<b>E 14市町村</b>	2万円		<b>2万5千円</b>

(例)Bパターンの市町村在住の患者が、7万円分のウィッグを購入した場合。

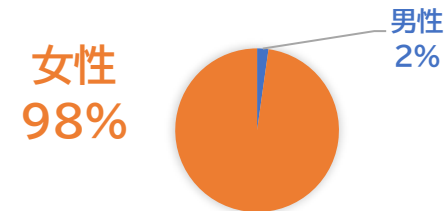
市町村負担3万円 購入額の1/2が上限	県負担 1万円	自己負担3万円
------------------------	------------	---------

# ウィッグ 性別・年代別申請件数(R6年度実績)

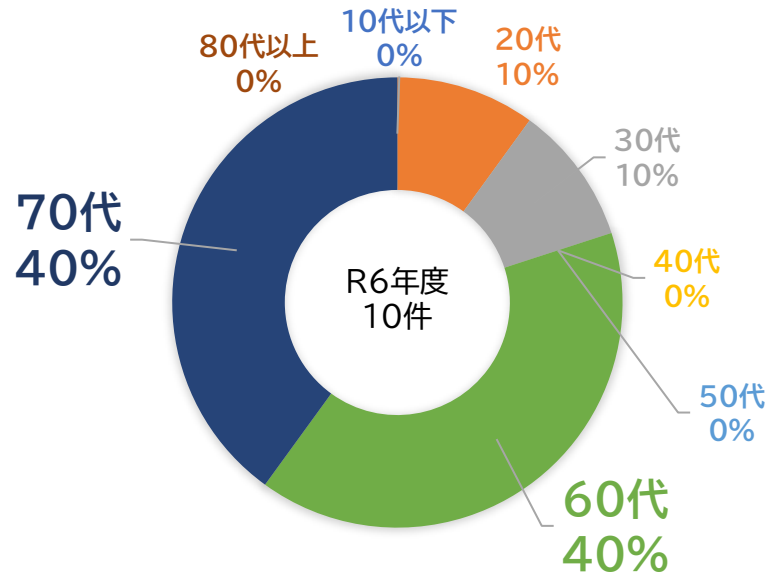
- ・ほとんどが女性からの申請であり、50代～70代が約8割を占めている。
- ・男性からの申請は少ないが、60代、70代からの申請の割合が高い。

申請件数 ウィッグ等:448件

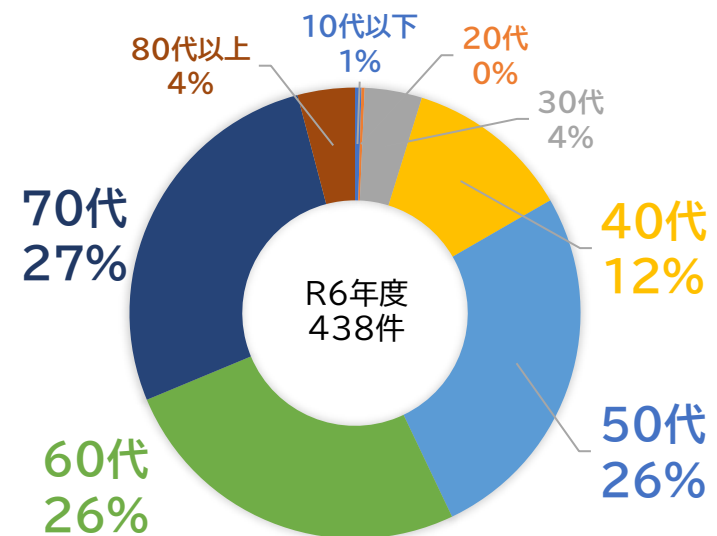
男女比



ウィッグ(男性)年代別



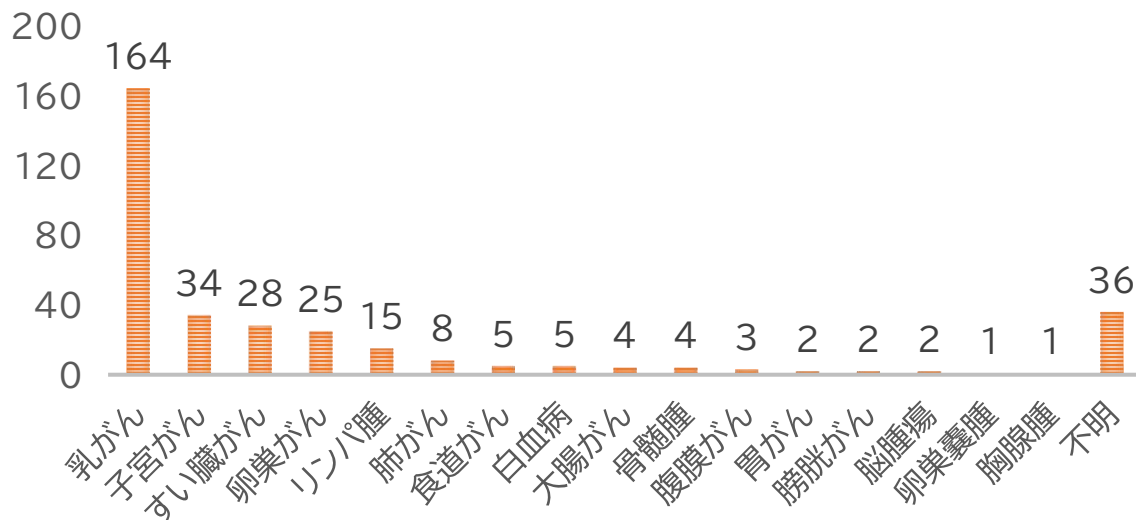
ウィッグ(女性)年代別



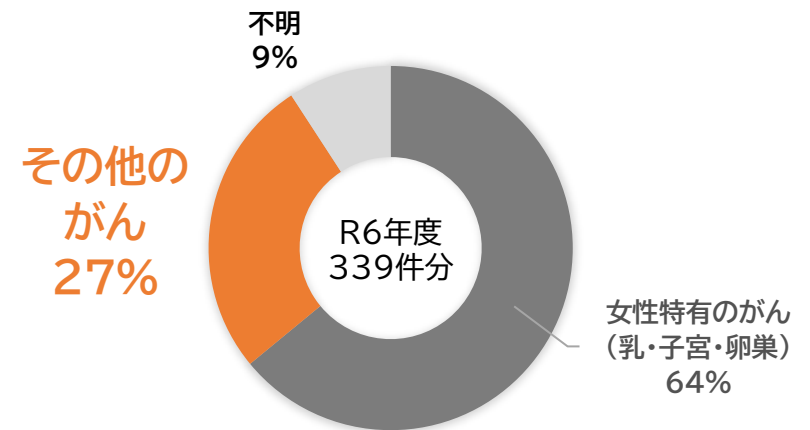
# ウィッグ(女性) がん種別申請件数(令和6年度実績)

- 女性からの申請のがん種別の内訳は、乳がん、子宮がん、膵臓がんの順に多い。
- 女性からの申請のうち、女性特有のがん以外の患者からの申請が4分の1以上を占めている。  
現在は男性からの申請は少ないが、潜在的なニーズがあるのではないか。

がん種別申請件数(ウィッグ・女性)



女性からの申請のうち、  
女性特有のがんの割合



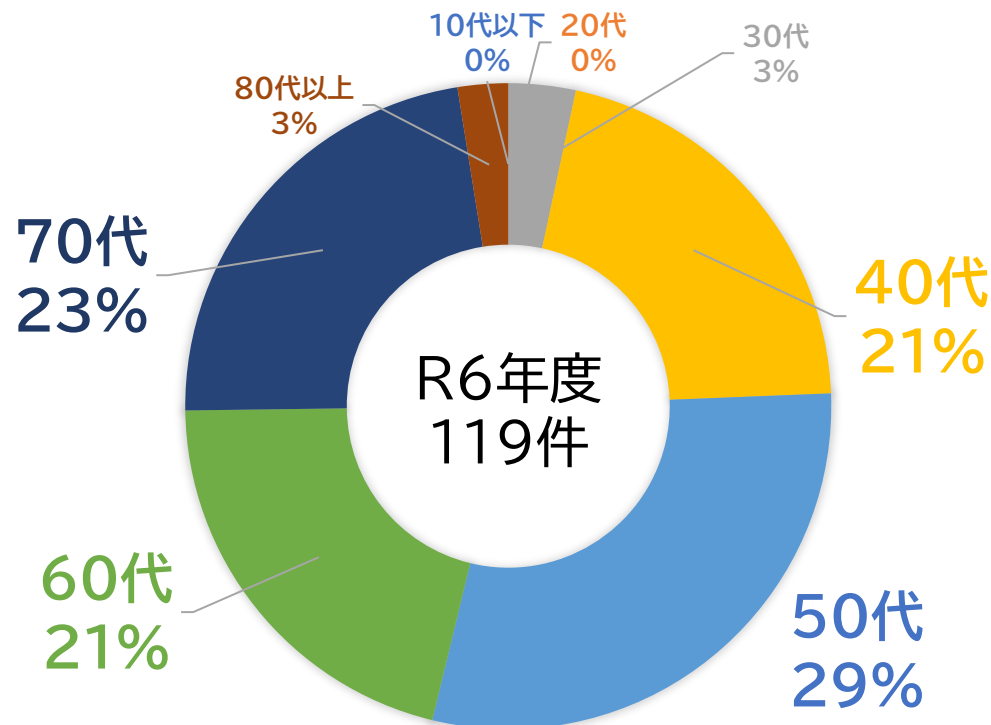
※男性の申請件数は少ないので、公表しない。

※女性の申請件数438件のうち、把握できた339件分のデータである。

# 乳房補正具 年代別申請件数(令和6年度実績)

- ・乳がんの罹患者が増加する40代以降の年代からの申請がほとんどである。

申請件数 乳房補正具等:119件



# 相談支援センターでの相談対応状況(10拠点病院への聞き取り結果)

## 【相談者の属性】

- 女性患者からの相談が大多数。(20～80代)
- 男性患者は少数だが、社会的地位の高い方が多い。
- 男性患者の妻・娘からの相談もあり。(例:子どもの行事参加時の対応等)

## 【相談内容】

- 脱毛の時期、対応方法、脱毛開始時の精神的苦痛
- ウィッグの購入方法
- 爪・皮膚障害への対応方法
- 脱毛を理由に治療をためらう相談
- 職場に脱毛を知られたくないという不安
- 乳がんの術前・術後に、必ず補正具についての説明を実施。

# 相談対応上の課題(10拠点病院への聞き取り結果)

## 【補正具の購入】

- 男性用ウィッグの種類が少なく高額で、患者が購入をためらい、対応に悩むことがある。
- 高齢者は中心部への移動が困難で、補正具の購入が難しい。年齢を問わずネット利用に抵抗がある患者も多く、支援に繋がりにくい。
- 独居の高齢者等、家族の協力が得られない患者への対応。

## 【院内連携】

- 入院中は外見ケアが後回しになりがちで、病棟スタッフの意識もまだ高くないのが現状。
- 膵臓がんなど告知から治療開始までが短い場合、アピアランスケア相談につながらない場合がある。
- 院内連携(皮膚科、理容室など)が不十分。

## 【その他】

- ウィッグ使用時の暑さ対策が困難で、対応に苦慮している。
- 皮膚障害(色素沈着等)の対応に難しさを感じている。
- 頭皮冷却療法(脱毛を予防する治療、保険適用外)を患者が希望しても、金銭面で断念する例があり、精神面への対応に苦慮する場合がある。

# 補助金に関する相談対応(10拠点病院への聞き取り結果)

## 【病院での周知方法】

- 脱毛を伴う治療開始時、乳がん手術前に補助金制度を案内。
- 患者がアピアランスケア相談に来た際に補助金制度を案内。
- がん相談支援センター、通院治療室、関連外来等にチラシを掲示。

## 【患者の周知状況】

- 患者が事前に補助金の情報を得ている場合もあるが、病院からの案内時に初めて知るケースが多い。

## 【申請手続について】

- 高齢患者には申請が難しく、手助けが必要。
- 申請手続きの説明書をHPからダウンロードできると患者への説明がしやすい。
- 市町村HPの形式がバラバラで分かりづらい。
- 圏域内で助成額に差 → 不公平感あり



# 今後の県としての取り組み

聞き取り結果から 見えてきた課題	課題解消に向けた県取り組み案
補助金申請手続きの複雑さ	<p>市町村・病院合同のアピアランス研修会の実施(p11)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 病院と市町村の意見交換の機会を設け、HPへの記入例の掲載等各市町村で検討いただく。</li><li>・ アピアランスケアの専門家を招き、相談対応方法についての知識を得る。</li><li>・ 病院間で好事例を共有できる機会を設ける。</li></ul>
男性患者や爪・皮膚障害の相談対応の難しさ	
院内連携が不十分	
補助金のさらなる周知	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 市町村、病院の意見を取りいれた周知用チラシの作成。</li><li>・ 市町村HP一覧にリンクするQRコードを掲載。</li><li>・ 拠点病院等に配布し、相談対応時に利用いただく。</li></ul>

# アピアランスケア研修会(市町村・医療機関合同開催)

【目 的】①アピアランスケアに関する基礎知識の習得

②市町村と拠点病院の相談支援担当者間での連携強化と共通理解の促進

【日 時】令和7年12月3日(水)14:00～16:00

【場 所】富山県民会館

【参加者】市町村担当者、拠点病院相談支援担当者(予定)

【内 容】①アピアランスケアに関する講義(富大アピアランスケアチーム)

- ・アピアランスケアとは
- ・病院でのアピアランスケアの流れ
- ・実際に使用されているウィッグ、乳房補正具の種類
- ・病院での補助金案内方法、患者への周知状況

②市町村と病院の意見交換会

- ・補助金の対象とする補正具の種類について
- ・補助金の効果的な周知方法、申請手続きについて